

2019年3月20日
日本生命保険相互会社

「SDGs 達成に向けた当社の目指す姿」の設定について

日本生命保険相互会社（社長：清水博、以下「当社」）は、2015年9月に国連総会で採択された持続可能な開発目標（以下、「SDGs」）の達成に向けて、あらゆる企業活動を通じて取組み、当社ならではの新たな価値を創造する観点から、「SDGs 達成に向けた当社の目指す姿」を設定しました。

当社は創業以来、相互扶助の仕組みである生命保険の普及を通じて、新たな貧困を生まないための社会のセーフティネットの役割を担い、国民生活の安定と発展に寄与するべく努力を続けてきました。

一方、現代社会においては、深刻で多様な社会的課題が顕在化しており、地球規模でこれらの解決を目指すべく、2015年に国連総会でSDGsが採択されました。SDGsが掲げる理念は、当社の創業の精神そのものであり、当社はあらゆる企業活動を通じて、SDGs達成に貢献してまいります。

取組にあたっては、「貧困や格差を生まない社会の実現」「世界に誇る健康・長寿社会の構築」「持続可能な地球環境の実現」の3つのテーマと「ESG 投融資」に特に重点を置き、安心・安全で持続可能な社会の実現を目指します。

<SDGs 達成に向けた当社の目指す姿>

**貧困や格差を生まない
社会の実現**

－次世代を社会で育む仕組みづくり

**世界に誇る
健康・長寿社会の構築**

－健康寿命の延伸に資する取組

**持続可能な
地球環境の実現**

－気候変動問題への取組

SDGs 達成を後押しする ESG 投融資

－資金提供やスチュワードシップ活動を通じた社会・企業行動への働きかけ

安心・安全で持続可能な社会の実現



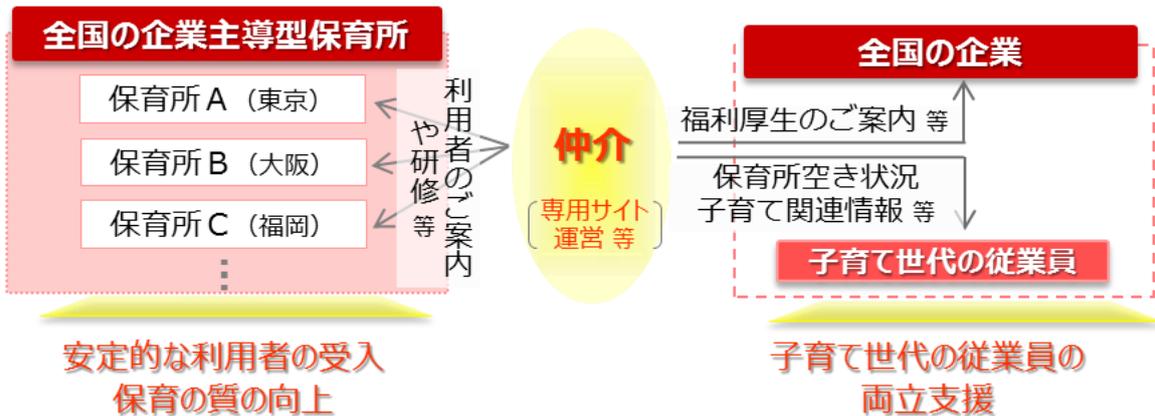
以上

SDGs 達成に向けた具体取組は、今後、順次公表します。以下は、現在決定している主な取組です。

(1) 貧困や格差を生まない社会の実現 ー 次世代を社会で育む仕組づくり

■ 子育てと仕事の両立可能な社会の実現に向けた取組

保育事業者である株式会社グローバルキッズとの業務提携を通じて、全国の企業主導型保育所と企業・従業員を繋ぐインフラを構築し、安心して子育てと仕事を両立できる社会の実現を目指します。また、東京大学との共同研究を通じて、保育の質の向上に資する取組を進めていくほか、株式会社ベネッセコーポレーションの協力のもと、従業員の方々への子育て関連情報等の提供を通じて、子育て世代に寄り添った取組の検討を進めてまいります。



(2) 世界に誇る健康・長寿社会の構築 ー 健康寿命の延伸に資する取組

■ 予防・早期発見支援に資するサービスの充実

① がん簡易検査の無料提供の開始 (2019年4月より提供開始)

2019年4月より、所定の条件を満たしたお客様を対象に、がん簡易検査を無料提供します。具体的には、無料のウォーキングアプリ「aruku&(あるくと)」を活用して1日8,000歩以上歩くと、抽選で指先採血による郵送型検査キット「おうちでドック」や、サリバテック社の提供する唾液を使用した簡易検査「サリバチェッカー」が当たるサービスを開始します。

New **がん簡易検査として、次の2種類を提供予定** **業界初***



【「おうちでドック®」(郵送検査)]
微量の血液の採取・郵送で、
がん等のリスクを検査可能。



【サリバチェッカー]
唾液に含まれる複数の成分の濃度を
測定し、がん疾患リスクを評価可能。
*一般のお客様向けに提供する取組について
(2019年3月時点)

「aruku&(あるくと)」について

株式会社マピオンの運営する、無料のウォーキングアプリ。スマートフォンを持って歩くと、当社既契約者限定サービスである「ずっともっとサービス」のサンクスマイルが貯まるだけでなく、様々な賞品が当たる抽選に応募できます。



②認知症の予防・早期発見に向けた実証実験開始（2019年4月より開始）

当社は、2018年3月より、国内生命保険業界で初めて Amazon Alexa に対応した取組として「ニッセイ脳トレ」を開発し、認知症の予防に有効とも言われる脳の刺激や生活習慣の改善に役立つコンテンツを提供しています。



今回、「ニッセイ脳トレ」に最先端の IT を組み合わせ、認知症の早期発見に資するサービスを創出するべく、新たな実証実験を開始する予定です。

③糖尿病予備群向け予防プログラムの開発

当社では、日本生命病院をはじめ様々なパートナー企業と、糖尿病予備群を対象にした予防プログラムの開発に着手しています。当プログラムでは、様々な ICT 機器を用いてプログラム参加者が自身の体調をセルフモニタリングすることを促しつつ、これらのデータを活用した生活習慣改善指導を日本生命病院の保健師が遠隔で行います。効果的なプログラムの構築に向けて、当社職員のほか、複数の自治体の職員を対象にしたトライアルを実施しています。地域の特性や課題等に応じた、地域に寄り添ったプログラムを構築することで、住民の健康寿命延伸や健康なまちづくりに貢献してまいります。

地方自治体が抱える課題

地域医療格差の是正 健康なまちづくり 生活習慣病予防 等

糖尿病予備群向け 予防プログラム

日本生命病院をはじめ様々なパートナー企業と、糖尿病予防プログラムの開発に取り組んでいます

遠隔での保健指導

- 日本生命病院の保健師が、TV電話等の方法で保健指導を実施

公益財団法人 日本生命済生会
日本生命病院



様々な機器・サービスによるセルフモニタリング

- プログラム参加者が自身の体調をモニタリングできる環境を構築



(3) 持続可能な地球環境の実現 ー気候変動問題への取組

■営業拠点の省エネルギー化に向けた取組

2018年7月に、新築の日本生命小山支社結城営業部が当社初となるBELS※¹の最高ランクにおけるZEB Ready※²認証を取得しました。当社では、全国に約1,500の営業拠点を所有しており、今後、建物の老朽化等により新築する営業拠点は、原則として、全てZEB Ready水準にて建設する方針です。今後も、更なる環境負荷の低減を目指し、営業拠点の省エネルギー性能向上に関する調査・研究を進めてまいります。



【小山支社結城営業部 外観】

※1 BELS (ベルス) とは

Building-Housing Energy-efficiency Labelling System の略称で、国土交通省が定めた「建築物の省エネ性能表示のガイドライン」に基づき、建築物の省エネ性能を第三者機関が客観的に評価し、5段階で表示する制度です。

※2 ZEB Ready (ゼブ・レディ) とは

ZEBはnet-Zero Energy Buildingの略称。ZEB ReadyとはBELS評価時に付与されるグレードの一つで、快適な室内環境を保ちながら、高断熱化・日射遮蔽、高効率設備等により、一般的な建築物に比べて50%以上の省エネルギー性能であると認められる建築物に付与されます。

(4) SDGs 達成を後押しする ESG 投融資

ー資金提供やスチュワードシップ活動を通じた社会・企業行動への働きかけ

■ESG 投融資推進に向けた取組

当社は、これまでも公共性を重視した資産運用を実施してきましたが、2016年度に国連責任投資原則に署名したほか、中期経営計画において、ESG債等への投融資をSDGsに資する投融資と定義し、7,000億円の数量目標を設定する等、更に取り組を強化しています。引続き、投融資の判断においてESG要素を加味するインテグレーションや、投資先企業との対話等、各種投融資手法を強化し、SDGs達成に向けて資産運用の面からも取組んでまいります。

以 上